情報局編輯
十一月廿四日第二百九十九號

寶塚週報

つゞけ決戰の大空へ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

この手で造つた飛行機が
この眼で送つた荒鷲が
あの驚天の戰果をあげたのだ
われらは
戰場をにらんでまつしぐらに
飛行機を造るのだ
あの荒鷲につゞくのだ

「時の立札」は他へ轉載この他に御利用下さい

空の決戰相次ぐ　第一、第二、第三、第四次ブーゲンビル島沖航空戰

海鷲ひとたび飛びたてば南海は鯨鯢に染み、敵艦隊は海の藻屑と化す。一發一發沈の雷撃魂ひとたび昂れば世界を驚倒さす大戰果をあげるのだ

寫眞　三枚海軍報道部員

戰果に應ふる途

一　ソロモン戰局の緊迫化

十一月五日大東亞の首都東京において大東亞六ケ國代表並びに自由印度假政府首班を網羅する劇期的大東亞會議が厳肅裡に閉會され、大東亞十億の民は、今更の如く大東亞戰爭の崇高なる意義と大東亞建設の使命の重大性を神々と體得したのであるが、翌六日我が大本營發表は、ブーゲンビル島沖海戰並びにラバウルにおける航空邀撃戰の赫々たる戰果を傳へた。その後、相つぐ大本營發表は、日を逐つて擴大する我方の大戰果と、『海ゆかば水漬く屍』『撃たずば止まじ』の壯烈正に鬼神を哭かしむる我が海軍航空部隊の驚駭力闘と、海上部隊及び地上部隊の猛攻撃ぶりを傳へ、銃後一億國民はこの稀有の大戰果に歓喜すると共に、ソロモン群島方面における戰局の重大化を痛感、今こそ國内態勢の強化、生産增強に一段の努力を致し、以て前線將兵の七生報國の忠魂義膽に應へ、南海にあがる不滅の戰果に感謝せんことを誓つたのである

敵のモノ島上陸以來『第四次ブーゲンビル島沖航空戰』までの綜合戰果は

撃沈

大型空母　一隻、大型巡洋艦　二隻、巡洋艦　五隻、巡洋艦（若しくは大型駆逐艦）一隻、大型駆逐艦　二隻、大型輸送船　三隻、計十四隻

撃沈

戰艦　四隻、中型空母　一隻、大型巡洋艦　四隻、巡洋艦　一隻、巡洋艦（若しくは大型駆逐艦）三隻、駆逐艦　五隻、輸送船　四隻、小型輸送船一隻、計　二十三隻

撃破

戰艦　二隻、大型空母　二隻、中型空母　一隻、大型巡洋艦　十一隻乃至十二隻、巡洋艦　一隻、巡洋艦（若しくは大型駆逐艦）八隻、駆逐艦　三隻、大型輸送船　三隻、小型輸送船　一隻、計　三十二隻乃至三十三隻

撃墜　飛行機四百機以上

といふ實に眞珠灣强襲以來の驚異的なものであり、しかも我が方の損害は駆逐艦二隻沈没、巡洋艦二隻小破、飛行機の自塹、未歸還百五機、同損傷七機にのぼつた

しかしながら銃後國民は、この大戰果に醉ふ前に、この戰果そのものがたやすく獲得されたものでないことを深く考へなければならない。また敵が、右の戰果にも見る如く、大規模なる輸送船團、强力なる航空兵力、空母集團、大艦隊等を續々出撃せしめ、所謂『鼠』を恃みとする强引なる正攻法を以て、我が戰略要線へ直接その鋒先を向けて來た事實を顧みて輕視してはならない

二　頑强な敵の戰意

敵は從來ソロモン方面において數次に亘り、いはゆる『島傳ひ作戰』をとり來つたのであるが、今次の反攻作戰は、全くその性格を異にし强引な正攻法で押切らんとするものであり、戰略的に極めて重大視すべき作戰である

かねて大東亞共榮圏の建設によつて、我が方の戰力が强化せられんことを恐れる敵は、建設の『時』を我々に與へまいと必死に反攻し來つたのであるが、敵の反攻目標はわが戰略要線、特にラバウルに直接向けられてをり、敵はラバウルより直接本土へ、或ひはまた比島に出でて我が戰略要線を攪亂するとともに、共榮圏の奏易を破壞して豊富な南方資源の戰力化を妨害、東亞解放の大理想をもつ共榮圏の建設を畫餅に歸せしめんと企圖しつゝあるものゝやうである。現在、敵が攻撃目標として既に敵部隊の一部を上陸せしめたブーゲンビル島は、ソロモン群島北端にある我が重要據點であるのみならず、さらに敵が同島を足場として、ラバウルその他大東亞防衛の我が戰略線内に喰入らんとしてゐる點に考へ及ぶならば、大戰果に醉つてゐる戰局ではないことを痛感するであらう

もちろん、今次の決戰によつて、我が方が敵に與へた打撃は甚大であつたが、かゝる甚大な打撃を蒙つても敵は決して簡單に引退る道理はない。陣容を整備强化してくりかへし〳〵反攻を企てることは必至である。その場合においても、飽くまで物を持む敵は、尨大な生産力を背景とし、强大な航空兵力、海上兵力を動員して反攻し來ることは想像に難くない。しかしながら、敵の『鼠』を以てする强引な反攻に對して、我もまた『鼠』を以て對抗すれば敵を壓倒し得ることは、今次の戰闘でもまざ〳〵と立證されてゐる。例へば、ラバウルの航空邀撃戰において、わが海軍航空部隊、海上部隊、地上部隊は二百數十機中實に二百一機を撃墜し去つたのである

このことは獨り航空機並びに搭乘員のみでなく、艦船、兵器の殆んど總てについて言ひ得ることであつて、今こそ銃後生産陣、否、一億國民すべてが決然立つて、一層の生産增强に邁進すべき秋である。またかくすることが、前線將兵が碧血を以て贏ち得た今回の大戰果に酬いる唯一の途であり、また敵米英の不遜なる反攻企圖を徹底的に撃摧し去る最短の捷徑に他ならない

三　銃後への期待

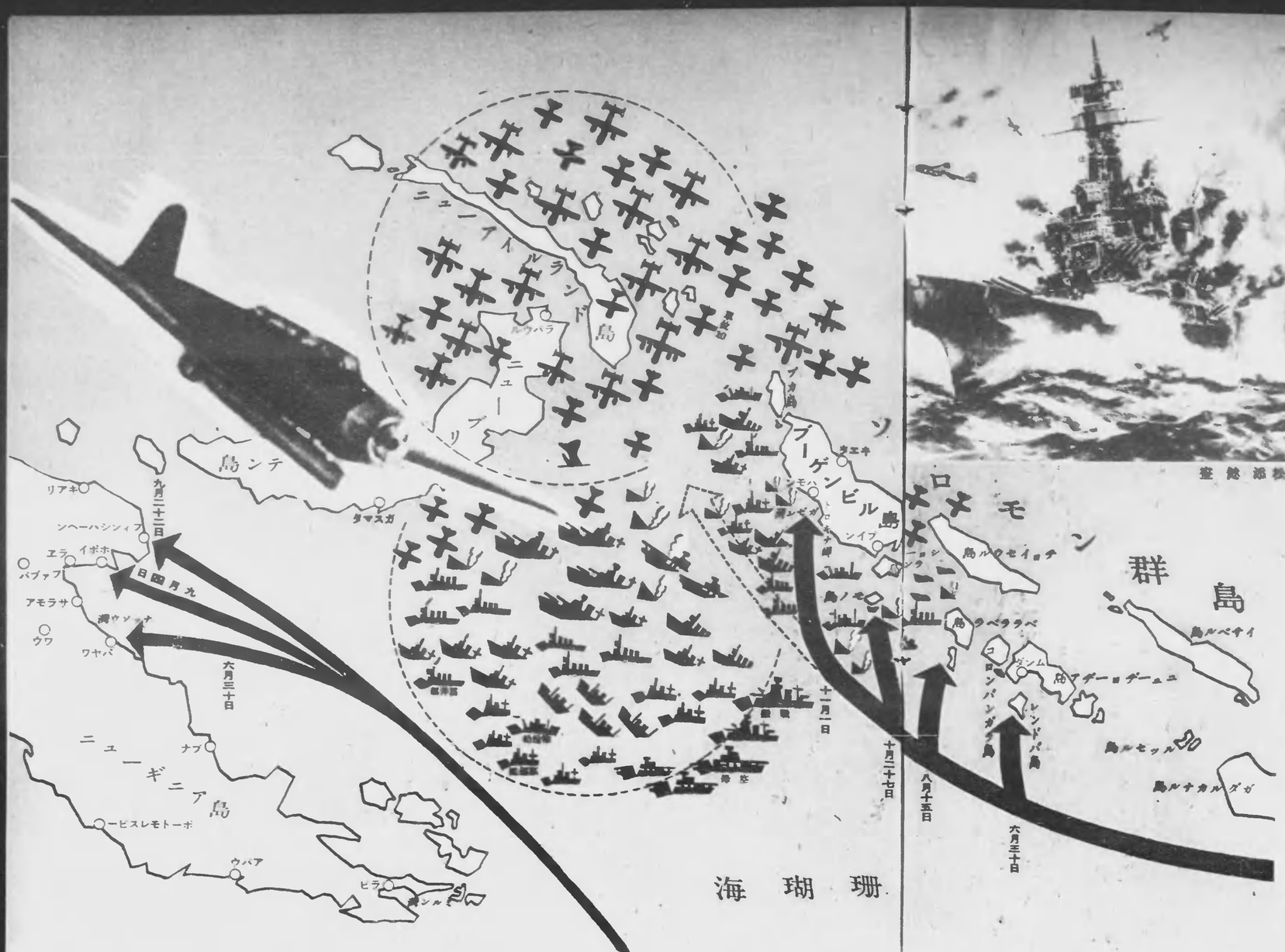
今やソロモンの戰局は極めて重大なる段階に突入した。しかして前線と銃後、第一線の戰場と銃後生産陣の一體化が、今日ほど切實に要請されてゐる時はないのである。銃後の國民が現下戰局の重大性を一層明確に把握し、一機でも多くの飛行機、一人でも多くの搭乘員、一隻でも多くの艦船を前線に送ることによつて、今回の戰果を更に擴大し、傲慢迂つ執拗なる敵の反攻企圖を徹底的に粉碎すること、これが戰闘配置についた一億國民の任務である

第一次並びに第二次ブーゲンビル島沖航空戰において、求敵必滅の烈々たる氣魄と盡忠報國の至誠に燃え、敢然中隊の陣頭に立つて敵中へ突入した納富大尉、清宮大尉ほか三中隊長をはじめ、航空隊員すべてに眞々と波うつ壯烈崇高なる大精神こそ、一億國民の一人々々が、今こそしつかり身につくべき大和魂の精華でなければならない

—大本營海軍報道部—

⇧機銃掃射

空の決戰相次ぐ



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

將大賀古官長令司隊艦合聯りたり乎儼

大本營發表（昭和十八年十一月十一日十一時三十分）
大元帥陛下には本日海軍奏任長官を召させられ聯合艦隊司令長官に對し左の勅語を賜りたり

勅語

聯合艦隊航空部隊ハ今次「ソロモン」海域ニ於テ勇戰奮鬪大ニ敵艦隊ヲ擊破セリ朕深ク之ヲ嘉ス
惟フニ同方面ノ戰局ハ益多端ヲ加フ汝等益奮勵努力以テ朕カ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

撮影　海軍省

畏くも勇戰御嘉尚の勅語を賜ふ。何たる武人の光榮であらう。想へば山本元帥の壯烈な陣頭戰死の後をうけて以來七ヶ月、默々と時至るを待ちに待つた聯合艦隊司令長官古賀峯一大將が拂つた降魔の劍は、敵の艦艇七十隻、飛行機四百機以上を忽ち屠り去る。この大いなる勝報の中にあつて自若、宸襟を安んじ奉らんとひたすら次ぎの作戰を練る古賀大將に、草莽の微忠を竭さん葉隱武士の神髓がある

大東亞戰爭日誌

―十月―

二十六日　●ニューギニア島フィンシハーハン北方地區においては依然激戰継續中にして、目下特にソングン河口附近の戰鬪熾烈なり。現在までに判明せる該方面の主要なる戰果次ぎの如し
（一）敵に與へたる損害　遺棄死體約二千、鹵獲品、火砲十四門、銃器約六百挺
（二）我が方の損害　戰死約三百五十名

二十七日　●十月二十七日早朝、敵の一部隊モノ島に上陸せり。帝國海軍航空部隊は上陸點附近の敵艦船を攻撃し、巡洋艦一隻を轟沈し、他の一隻を撃破せり

―十一月―

二日　●（一）ニューギニア島におけるその後の戰況次ぎの如し
（イ）フィンシハーハン附近の我が部隊は果敢なる攻撃により敵に甚大なる損害を與へたる後、さらに態勢を整へ爾後の攻撃を準備中なり。十月十六日以降同二十九日までに判明せる主要なる戰果次ぎの如し
敵に與へたる損害　遺棄死體二千六百四十八、鹵獲品、火砲六門、銃器約六百五十挺、各種彈薬約十四万發、破壊せるもの、火砲十門、彈薬集積所三箇所、糧秣集積所三箇所
我が方の損害　戰死四百二十二名
（ロ）マダン南方地區の我が部隊は逐次増強中の敵に對し果敢なる攻撃を續行中にして、九月下旬以降現在までに敵に與へたる損害一千名を下らず
（二）經支廻英方面の作戰は順調に進捗し、該方面の我が部隊は怒江以西の重慶軍の退路を完全に遮斷し、敗敵を陰所に補捉撃滅すると共に、次期作戰を準備中にして、十月上旬以降同二十七日までに收めたる主要なる戰果次ぎの如し
遺棄死體一千二十、俘虜百十、鹵獲彈薬約十三万發

五日　●既報モノ島上陸點附近の敵艦船に對する攻撃において、帝國海軍航空部隊の擊ける戰果に左記を追加す
（イ）敵に與へたる損害
轟沈　巡洋艦　一隻（自爆機の體當り）
によると、大型輸送船　一隻、撃破　撃沈
小型輸送船　一隻、撃破　大型巡洋艦　一隻、小型輸送船　一隻
（ロ）我が方の損害　未歸還三機

●一、モノ島上陸以來敵の動靜を監視中のところ、十月三十一日有力なる敵輸送船團數群に分れ、ニューギニア島南方海面を北上中なるを發見し、所在帝國海軍航空部隊並びに海上部隊は直ちに出撃、これを邀撃して左の戰果を得たり
（一）海軍航空部隊は十月三十一日夜より十一月二日朝にかけモノ島東方海面およびブーゲンビル島西方海面において、一部上空直衛を配せる敵輸送船團を攻撃せり
（イ）敵に與へたる損害

轟沈	大型輸送船	二隻
撃沈	巡洋艦	一隻
	駆逐艦	一隻
	上陸用舟艇	四十隻以上
撃墜		十機
撃破	大型巡洋艦	一隻
	巡洋艦（若しくは大型駆逐艦）	一隻
	大型輸送船	二隻
	小型輸送船	多數

（ロ）我が方の損害
自爆　未歸還合計十五機
（二）海上部隊は十一月一日夜ブーゲンビル島カギセレ灣外において有力なる敵巡洋艦、駆逐艦部隊と交戰せり
（イ）敵に與へたる損害

轟沈	大型巡洋艦	一隻
	大型駆逐艦	二隻
撃沈	大型巡洋艦	二隻
	巡洋艦（若しくは大型駆逐艦）	一乃至二隻
撃破	大型巡洋艦	一隻
	駆逐艦	一隻同志討にて炎上せるを認む
その他		
（ロ）我が方の損害　駆逐艦　一隻
十一月、巡洋艦　一隻　小破
（三）本海戰をブーゲンビル島沖海戰と呼稱す
二、敵の一部は十一月一日早朝ブーゲンビル島トロキナ岬附近、同二日朝ハモン南側地區に上陸せり。同地陸軍部隊はこれを邀撃海戰中なり。

われらあとに続かん

三重海軍航空隊

平素にあつては明朗闊達、純眞にして一點の曇りもなく、職を把んでは勇猛果敢、一撃必ず敵機を屠る。これがわが海軍本然のありかただ。『書斗練習生』時代に早くもこれは陶冶され得されてゆく。あとに續く者達の頼もしい姿だ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

われらあとに続かん

三重海軍航空隊

⇩ 傷痍を背に凛爽としたこの勇姿を、お父さん、お母さん見て下さい。やがてソロモン海域の空に存分の働きをしてきっと〳〵お国に報いる覚悟です

五百機には五百機をもつて、一千機には一千機をもつて戦はう。量をたのむ敵には量をもつてもたゝきつぶしてやるだけだ。見よ、ブーゲンビル島沖航空戦における海軍航空隊の戦果を。この姿には、今日あるを期してひそかに技を磨き、腕を練つてきた数多の海軍航空隊勇士がおつたのだ。機材とともにこの優秀なる荒鷲をさらに多量に、それこそ最末十上空をわが制空権下にをさめる日まで絶対に確保せねばならない

すでに第一線の大空に不滅の偉勲を樹てつゝ敵撃滅に敢闘する海鷲につゞいて、國運をその双肩に擔つて起つべき少年諸君、諸君の清純な胸にたぎる愛國の熱血を大空にそゝげ。海軍航空隊は大手をひろげて諸君の大學志願を待つてゐる

目下募集中の昭和十九年四月一日入隊の甲種飛行練科練習生志願の案内を記してみよう

年齢――現在満十五歳以上二十歳未満の者、詳しくいへば大正十三年十二月三日から昭和四年十二月二日までに生れた者です

手續――志願書の提出期日、検査日、検査所等は各府県毎に告示されますから、期日に遅れぬやうに志願書に必要事項を書き入れ、父兄の同意を得た上で、市區町村長を經て地方長官に提出するのです

検査の時期と方法――第一次は昭和十九年一月上旬各府県の主要都市で行ひ、第二次は一次検査の適任者中から同月下旬、所定の海軍航空隊に召集して行ひ、採用者を決定します。検査は身體、學力、適性とありますが、學力は中學三年修了程度であれば學歴はどうでもよいのです。身體検査は左表の規格により、この他には體重が

海軍航空隊並びに海上部隊は地上部隊と協力し、敵上陸部隊の殲滅、後續部隊の阻止撃滅に努めつゝあり三、敵は右上陸と相俟ち有力なる航空部隊をもつてニューブリテン島および攻撃を企図せるも、海軍航空部隊、海上部隊並びに地上部隊はこれを邀撃し

(一) **ラバウルにおいては十一月二日敵約二百數十機來襲せるも、海軍航空部隊、海上部隊および地上部隊はその大部二百一機（うち不確實一十七）を撃墜せり**

海軍航空部隊による戦果

百二十七機（うち不確實一十八）

海上部隊による戦果

五十一機（うち不確實一十六）

地上部隊による戦果

二十三機

本戦闘において我が方自爆、未歸還合計十九機なり

(二) ブカにおいては十一月二日敵約三十九機來襲せるも、地上部隊はその三十九機を撃墜せり

●帝國海軍航空部隊は十一月五日夕刻アドミラルティ島南方海面において敵輸送船を發見し、これを攻撃して左の戦果を得たり

轟沈 大型航空母艦 一隻

撃沈 中型航空母艦 一隻

大型巡洋艦 二隻

巡洋艦（軽巡洋艦） 二隻

我が方の損害 未歸還 三機

（註）本航空戦を第三次フーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

七 日 ●(一)ニューギニア島方面の我が陸軍航空部隊は十一月六、七の両日マザブ、マラワサ等の要衝を攻撃し、敵機約五十機を撃破するまたは炎上せしめたると共に、空中戦により十八機（うち不確實二）を撃墜せり。我が方の損害、自爆および未歸還七機なり

(二) ニューギニア島フィンシハーヘン附近の我が部隊は十月三十日以降十一月三日までに數次にわたる敵の出撃を撃砕し、これに四百名以上の損害を與へたり

九 日 ●帝國海軍航空部隊は十一月八日朝以來フーゲンビル島南方海面において敵輸送船團並びに護衛艦隊を猛攻中にして、只今のところ判明せる戦果左の如し

轟沈 戦艦 三隻

巡洋艦 二隻（輕沈）

⇨ 魂と魂とは一對一で鍛へられる。そこに交流する感覚によつてこそ列國に卓絶するわが海鷲は育て上げられるのだ。操縦訓練を前ここまで〳〵と観覚の注意がゆきとゞく

⇦ 練習機ではちゃうけれど天翔けるよろこびに變りはない。初飛行の感激と緊張はその後の飛行のたびによみがへつてくる。今日もまた休みない猛訓練だ

身體検査の規格

年齢	十七年以上	十七年未満	十六年未満	十五年未満	十四年未満
身長（糎）	一六四・二	一六三・二	一六二・〇	一六一・〇	一六〇・〇
體重（瓩）	四五・三	四四・三	四三・三	四二・三	四一・三
胸囲（糎）	七七・〇	七六・〇	七五・〇	七四・〇	七三・〇
胸囲擴張（糎）	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇
肺活量（立方糎）	三八〇〇	三六〇〇	三六〇〇	三四〇〇	三四〇〇
視力左右（眼）	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
視力 各眼	一・〇（但し片眼のみ一・〇以上にして他眼視力一・二以上なるものは合格とす）				

⇦ 艦の如き肉體、旺盛な戦闘精神、これこそわが荒鷲の神髄だ。海軍特別練習生の育成はこの精髄に、倒れてやまぬ闘魂と肉體が培はれる

⇨ 飛行を終つて隊長の前に報告する態度も理想的として、すでに立派な少年飛行兵だ

轟沈 巡洋艦（軽巡洋艦） 三隻

撃破 戦艦 一隻（炎上大破）

大型巡洋艦 三隻以上（大破）

巡洋艦（軽巡洋艦） 三隻（炎上大破）

大型輸送船 一隻（炎上大破）

十二機以上

我が方の損害自爆未歸還合計十五機

（註）本航空戦を第二次フーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

十 日 ●第二次フーゲンビル島沖航空戦の戦果に左記を追加す

撃沈 戦艦一隻（炎上大破）、巡洋艦一隻（炎上大破）、輸送船一隻（炎上大破）、その他

撃破 大型巡洋艦 三隻（大破）

巡洋艦（軽巡洋艦） 一隻

撃墜 三機

我が方の損害に自爆未歸還五機を加ふ

十三日 一、●帝國海軍航空部隊は十一日晝夜間にわたり悪天候を冒して、フーゲンビル島南方海面において敵機動部隊を捕捉攻撃し、左の戦果を得たり

撃沈 巡洋艦（軽巡洋艦） 一隻（輕沈）

撃破 戦艦 一隻（中破）

大型航空母艦 二隻（小破）

大型巡洋艦 一隻（炎上大破）

巡洋艦（軽巡洋艦） 三隻（炎上大破）

駆逐艦 一隻（炎上大破）

撃墜 三機

我が方の損害

自爆及び未歸還 合計三十機

（註）本航空戦を第三次フーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

二、帝國海軍航空部隊並びに海上部隊は十一日ラバウルに來襲せる敵約二百機を邀撃し、その七十一機を撃墜せり。本戦闘において我が方損害は未歸還一隻沈没、巡洋艦一隻小破、未歸還十機なり

十四日 ●帝國海軍航空部隊は十一月十三日未明、フーゲンビル島南方海面において敵機動部隊を捕捉攻撃し、左の戦果を得たり

轟沈 大型巡洋艦 一隻（輕沈）

巡洋艦 一隻（輕沈）

撃破 戦艦 一隻（大破）

中型航空母艦 一隻（大破）

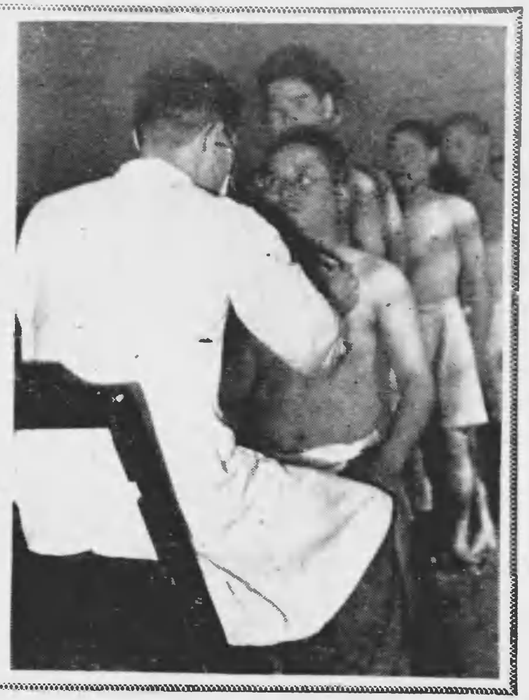
我が方の損害 未歸還 二機

（註）本航空戦を第四次フーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

もる送もく征で心心同と紙赤

うせまへ迎でんくを心の者徴應



徴用検査は、壮丁の徴兵検査と同様に心得、出頭命令書の裏面にしるされてゐる心得を[illegible]く読んで、遺漏のないやうにしなければならない。殊に本人は事故により出頭できない場合の届出は本人はもとより、留守宅または使用主、などが十分注意して、間違ひのないやうにしなければならない

地の弟へ　第一信

元氣で軍務に御精勵の由、一同喜んでゐます。こちらも皆、丈夫です。今日僕は國民徴用の出頭命令書をいたゞいた。もし僕が適格者ならば、御國が、戦爭遂行上非常に大切な仕事に就かせてやるから、まづ徴用檢査に出頭せよ、といふ御命令なのだ

本音を吐くと、最初は心の動揺を免れなかつた。家内も多少はうろたへてゐるやうだつた。だが、僕はすぐ、お前に濟まない。恥づかしいと思つた

この際、この時、立派な五體を持ちながら、いつまで喫茶店の主人でもあるまい、とかねゞ思ひ、まとは心の踏切りだけだつたのに……

しかし、これでさつぱりした。無學者の僕だが、お前が出征してから、新聞なども[illegible]命に読み、米英をやつつけるために、いま何が必要だか、國民が何をしなければならないか、多少は知へてゐる

ほんたうに晴れの應徴だ。お前は戦地で、僕は銃後で、思ひ切り御國のため働ける日が來るのだ。後顧の憂ひのないやう、十分お店の後片付をして、御召しの日を待つつもりでゐる

氣の早い僕は、もう油にまみれて、按盤なんかに取組んでゐる自分の姿を思ひ浮かべては、にこついてゐる。ではいづれまた

御武運を心から祈りきす

兄より

第二信

隨分御無沙汰した。その間、無事徴用檢査も濟ませ、勿論、合格、徴用令書もいたゞいて、明日はいよ〳〵動務地に出頭することになつた。徴用令書には、從事スベキ職動員業務として、軍事上、特に必要なる兵器その他軍需品の製造に關する業務とある。何といふ誇らかな氣持だらう。僕もお前がしたやうに徴用令書を神棚に供へ、覺悟を新たにした

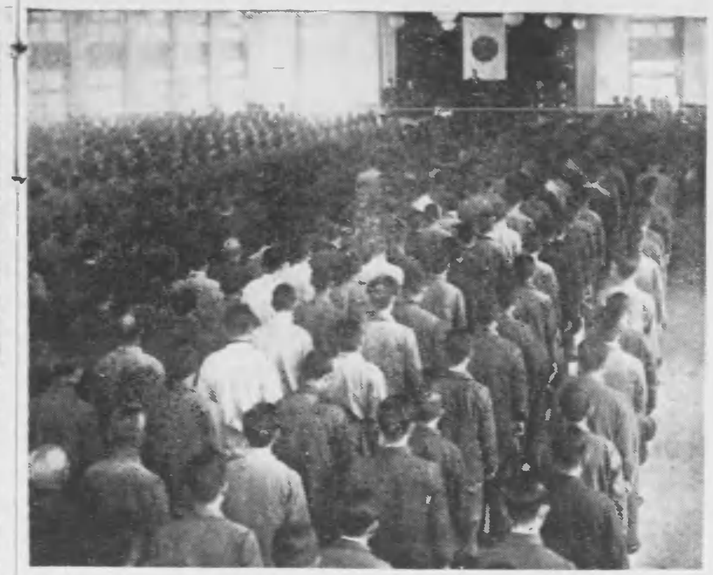
それに、殘つた家族が生活に困るやうなときには、軍事扶助と同じやうな國民徴用扶助といふ制度で、十分面倒をみて下さるといふ。また、應徴前の收入と應徴後の收入が餘りかけはなれてゐるときには、その差額の補給もして下さるといふ。兵隊さんと同樣、全く至れりつくせりの取扱をうけるわけだ。あとに、何の思ひを殘すことがあらう

また、町會の方々、殊に隣組のみなさんのご親切には、かへつてこつちが面映ゆい位だ。お前を送り出すとき、心の底から『後のことは心配するな』といつた。僕は今は、勿體ないことに、お前と同じやうな激動と恩情の中に包まれてゐる。家内もなか〳〵健氣なことを言つてくれる

明日、出發のことを思ふと、心がときめく……身體はくれ〴〵も大切にして下さい。では

兄より

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/



○○工場より　第一信

今日入所式を終へ、いよ〳〵晴れの應徴士だ。工場の内容は、お前にもちつかり話せない。軍屬が軍屬宣誓讀法やその他の軍紀に從はなければならないやうに、今日からは、僕たちも應徴士として、應徴士服務紀律に服さなければならない。不心得なことがあれば、勿論懲戒も受ける。しかし僕は、國家が定めた紀律に服し得るやうな身分を、男としてこの上もない殊遇だと思ふ。殊にうれしいのは、この工場の社長も、僕らと同じ應徴士、僕らの戰士であることだ。

そのうち僕の晴れ姿を送らう。胸には輝く應徴士徽章、中央の櫻は、魂の御櫛といでたつ防人の精神を現はし、また櫛に配されてゐる櫻花は大和心。鈴はわが大日本帝國の上代の美しい呼名、細戈千足國のほこであり、兵器を現はしてゐる。その上、旭光は八紘爲宇のわが肇國精神を示す…頑張るぞ。日幅たいやうだが、徴用の本義に徹して頑張るぞ

これから、三ヶ月の訓練期間がある。寄宿舍も住み易さうだ。何の心配もない。ではまた

軍務に一層精出して下さい

兄より

征くも送るも赤紙と同じ心で
應徴者の心を
くんで迎へませう

第二信

今日の感激を何といつて傳へたらよいか。滿く訓練期間も終つて、まだ十分とはいへないが、今日から機械につくことになつたのだ

馴れぬための興奮から、知らぬ間に時間がたつて、一日の作業が間もなく終らうとしたとき、あたふた工場に駆け込んだ事務所の人が、第二次マーゲンビル島沖航空戰の大戰果を傳へた。よくやつてくれた。萬歳！

[illegible]よいといふか、武運が強いといふか。僕としては初陣の日に、生れて初めての感激を味はせていたゞいた。前線將兵の勇戰奮闘のお蔭で、僕らまで、應徴士の、兵器を造るものの幸福、御國のために働くものの喜びに浸ることが出來るといふのは、何といふ有難いことだ

油によごれた僕の手に涙がにじんだ

弟よ。頑張らうぜ　兄より

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

生活貫軍人精神

岐阜縣瑞浪町の皆訓練

現在の戰爭が國民と國民との戰ひであることはいふをまたない。國民はすべて兵隊でなくてはならぬ。しかし、前線將兵があらゆる苦難に堪へ、激しい戰鬪に拔身してゐる姿を想ふとき、銃後の兵隊としてのわれ〳〵は、黙みてひそかに恥づる點がないであらうか。いまこそすべての國民は、割引なしに兵隊の心を心とし、軍人精神を生活の信條として生きねばならぬときである。

さて、軍人精神を體得すべき青年たちは、單に、やがて兵隊となるべき青年たちや、青壯年團もしくは防空團等にかぎられるべきではなく、これを全國民に及ぼさねばならぬ。すべての人々が、健剛な軍人精神につらぬかれてこそ、はじめてわれ〳〵すべてが一億の戰ひを戰ひ、大東亞共榮への壯大なる戰ひに參加してゐるといへる。

以上のやうな見地から、はやくより全町民の皆訓練に乘り出してゐる町がある。岐阜縣瑞浪町がそれだ。

その訓練の方法としては、隣組員を訓練對象とし、以て全町民皆訓練の完璧を期してゐる。即ち町會長を主體として、隣組指導者をまづ訓練し、次ぎにこれらの指導者によつて一般の隣組員の訓練が行はれるやうになつてゐる。

指導者への訓練は、殆んど兵營内におけるやうな嚴格な規律の下に、各個教練より始めて、小隊教練、中隊教練等にまで及ぼし、各訓練を通じて最も重要視されてゐるのは、不動の姿勢による軍人精神の體得である。

一般の隣組員の訓練は、さきに訓練ずみの指導者の指揮の下に、防空訓練と隣組の行事訓練とが行はれつゝある。隣組の人々は、この指揮者の下に積極的な熱意を示し、すゝんでこの皆訓練に參加、現在では町民が自然一體となつて訓練に生きるやうになつてゐる。これは大きにまたはれた具體的な事實がもつとも雄辯に物語つてゐる。

例へば、同町民の間には、物音の不足等に基きさゝ個人的な不平は全くあとを絶つて、兵士と同じ、いはゆる自らの手で道路を修理し、この經費は全く節約されてゐる。

また十二から成る隣組は、百三十人を動員して畑地一町一段の共同耕作を行ひ、本年度は甘藷三千三百八十五貫の收穫をあげ、既に七百貫を供出した。昨年度にこの畑であげた麥の裏作は七石で、二石を供出した。また或る隣組では、昭和十二年以來、その月の朔日を期して休日の五時に神社參拜、英靈の眠る寺院參拜を行ひ、詔書の奉讀、町是を誓つて後、各々の職場に拔身してゐる。少年に對する困難も克服し、すゝんでこれを自分たちへの試練とみるまでの心構へができてゐるからにほかならない。他方、訓練によつて鍛へられたこの逞しい戰鬪精神は、勤勞奉仕作業や共同耕作、神社參拜、少年の騎馬訓練等の面に反映されてゐる。

或る隣組では、昭和十年以來、毎月十五日には勤勞奉仕作業がつゞけられ、その顯著な成果としては、例へば當ては道路修繕費として毎年二千數百圓を要した町費は、今では町民の負担のお寄てすみんなの供出のお寄てすみんなの汗が實つて、こんなに大きくなつたお寄ですみんなの供出のお寄てすみんなの汗が實つて、こんなに大きくなつたお寄ですする馬の訓練は、愛馬心の涵養と身體鍛錬のために行はれ、相當の成績をあげてゐる。

かうした成果こそは、町民が軍人精神體得への熱意が結實した故であり、殊に注目すべきは、この皆訓練が既に約八年の歷史を有してゐることである。戰力增强を目標とするこの種訓練は、いやしくも形式に墮し、線香花火的に終つてはならない。どこまでもつゞけ、あくまでもやり拔く訓練でなくてはならぬ。瑞浪町の皆訓練はこの點でも好例といふことができよう。

⇨午前五時訓練開始、これにつゞいて體操があり、終つて皆その日の職場に出發する

⇨すべての訓練の基礎たる不動の姿勢は、在鄕軍人から直接に教育される

⇦馬事訓練は國民學校の校長先生が先達となり、指導員は國民學校の先生たちや、馬に經驗ふかい在鄕軍人である

⇦かつては人夫の手をわづらはしてゐた溝の浚渫と道路の補强。みんなで共同作業た

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一粒の米にもこもる恩の人、恩の神

⇨ 刈上げて一息ついたヨイコの收穫應援部隊

一粒のお米にもこもる無限の神恩と、收穫までにはらはれた言ひ知れないお百姓さんの苦勞を思へば、瑞穂の國に生れたことの有難さをしみじみと感謝しないではゐられません。まして この決戰下に、日々の糧にとかく憂ひもなく一億がその總力を決戰に集中し得られるのは、肥料の

⇨ 廻る脱穀機、増産は全運力だ。あとから〳〵と運ばれる稲束は無盡蔵だ

⇦ 供出も急がなければ、と依につまつた新穀は早くも船につまれて

⇨ お初穂を氏神様にそなへるお百姓さんの氣持こそ國民全體の新穀感謝の氣持だ

⇦ 供出米の俵に日の丸を立てたお百姓さんの氣持には、たゞ頭がさがるだけだ。前線にあがる戰果になぞらへたとの戰果、兵隊さんのやうにたゞ滅私の奉公がうんだ尊い戰果だ

不足や人手不足を何とか工夫し、勞働時間を延ばしてまで食糧戰に敢闘してゐるお百姓さんの不屈の努力によるものであることを思へば、どんな言葉でお禮を述べても足りないのです。早くも新穀の收穫と供出を終つた農村では、土地の改良や麥の增産に、農閑期といふ言葉をふつとばして、早くも來年度の食糧確保に大童です

かうした農村の姿を、レンズにとらへて寫眞會の新穀感謝運動に協力した各地方寫眞家の作品に見ることにしませう

⇩

働いたあとの飯のうまさ。まして勤勞奉仕の娘さん達の作つてくれた共同炊事の御飯だ、家でたべるのとはちがつて、また格別だ

十二月八日は輝く大東亞戰爭滿二周年記念日に當ります。大東亞の建設は着々と進展し、こゝに聖戰第三年を迎へますが、敵の反攻はいよ〳〵はげしく、戰局は深刻の一途をたどつてゐます。私どもは一昨年十二月八日のあの感激を三たび新たにし、あくまで長期戰を勝ち拔く覺悟を固め、今こそ一人殘らず戰鬪配置について、生産戰に、國土防衛に、總力を發揮しませう

一　十二月だけで『六十億貯蓄』を達成しませう

一昨年は十二月だけで三十億を、昨年は四十億を貯蓄しました。今月こそは是が非でも『六十億』を目ざして總攻擊しませう

一　八日には特に記念貯蓄として一日分以上の收入を貯蓄すること

二　應召した氣持で一層勤勞に勵み、年末の消費を切詰め、なほ臨時收入も貯蓄や公債消化にふり向けること

三　進んで貯蓄券を買ふこと

二　年末年始の輸送力を強めませう

不急の旅行や荷物の託送は、戰爭になくてはならぬ大切なものの輸送をさまたげます。勝つために必要な輸送に協力しませう

一　年末年始の旅行はやめること

二　贈答や買出しはやめること

お知らせ

大東亞戰爭二周年記念日を迎へ、本誌は來る十二月八日（第三百號）を倍大號とし、大東亞共榮圏各地の建設現況、並びに米英壊滅への道を特輯致します。定價は一部二十錢。なほ、このため十二月一日號は休刊致します

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

出陣の東大四千學徒壯行會

決戰の場に出で征く學徒の足なみは爽涼の秋空に力強くひゞき、在學生の打振る角帽の波に送られてゆく。いで立つ學徒の面上には『後輩よわれらに續け』と、無言の決意がみなぎつてゐる

東京帝大法、文、經、農各學部の出陣學徒約四千名を送る晴れの綜合壯行式は都下大學に亮けて、去る十一月十二日午前九時から校内大講堂で全學あげて盛大に行はれたが、式終つて卷脚絆も凛々しい出陣學徒は、純白の校旗を先頭に、思ひ出多い銀杏並木をくゞつて歩武堂々の行進を開始、かくて同十一時、部隊は二重橋前に整列、聖詠の萬歳を奉唱して解散した

寫眞週報

文藝 紙

遠い南の空からとび來る捷報が銃後を湧きたゝせるたび、火の出る訓練をつゞける戰鬼も、さすがに押へきれない喜びが體中をかけめぐるのを禁じえなかつたが『我が方の損害自爆未歸還〇〇機』との數字だけはそのたび戰鬼の胸をつき、はげしい怒りとなつて體中を逆流した。早くソロモンの空へ征きたい。そして、自分たちの先輩を殺した仇はきつとこの手でとつてやる――南の空をにらんで、戰鬼たちはさう決心を新たにするのだつた

〇〇海軍航空隊

大東亞戰爭漫畫日誌

自由印度獨政府へ贈られる前進基地

南海に直撃機は東の大戰果あがる

米艦撃滅（大東亞戰進展會議開催）

ラバウル東部の敵に屠りしの戰機

石川逸介

集金人と カード嬢

（第一生命保險會社）

一昨年に內勤女性二千人の展望は傍觀的態度といへる。みんな續々として働いてゐた女子の集金人は、世間の評判が男子より良いさうだし、本人も働めよいので、長續きもするさうだから、今にこの職業も全面的に女事務員となる氣配濃厚の由である

ホテル嬢五重奏

（帝國ホテル）

今まで從業員といへば殆んど男ばかりだつたこのホテルが、早くも女子で埋めつくされた形である。何んにはと難癖され、年寄りたちから遠んでゐる表でもある。いよ〳〵以て、淋しいうちに屈する限り、少數の男子を芯にすれば、あとは女子で埋まるらしい。いゝえ、むしろ女性諸君の方が固くらしい

婦人給仕

掃除人

客室係

出札改札嬢

（有樂町驛）

特別二、三十人の乘降客を呑吐する新宿、池袋、有樂町などの繁盛驛はまたゝく間に出札、改札、ホーム（客の整理）に早替りとなつた。八の少女たちが男子職員にとつて代つたのだが、この少女職員の育成に夫々の驛長さんの苦心は變頭に取りつくと「まだ手ぬるい」と御不滿もありますが、とうか御さんこの少女達を我が娘と思ひ、わが妹と思ひ、わがお友達と思ひいつまでも眼で見守つてやつてください

婦人給仕

婦人給仕

婦人給仕

必勝貯蓄！
コドモの保險！

ボクラは練成——家庭は貯蓄

富國徵兵

寫眞週報
禁無斷轉載
昭和十八年十一月廿四日印刷發行
編輯兼發行者 情報局
東京都千代田区
印刷者 印刷局
東京都港区芝琴平町

定價
一部十錢 送料一錢
（外國郵送に依る地域は送料其一部十九錢）
▲特大號の場合は其の都度郵拂込より差額を申受けます

申込所
全國各地官報
週報普及部
（各稀官報販賣所）
書店・驛賣店
新聞販賣店

本誌掲載の寫眞中、撮影者名或ひは提供者名を特に附してあないものは財團法人寫眞協會の「製作によるもの」です
又「海軍關係の複寫複製は海軍省承認濟第五四一號です

本誌を回覽に

本誌を、隣組や職場で回覽するなど、出來るだけ有効に御利用下さい

前線慰問にも

またお讀みになつたら本誌を前線慰問に送りませう 送料は内地と同樣で帶封あるひは開封にして第三種と明記すれば、一部一錢です

印刷局印刷發行

本書の大きさは標準規格A4版（縦二倍）